

北図書館だより 4月号 ほうれんそう



《新・尼崎の本棚 134》

令和7年(2025)第490号

尼崎市立北図書館
尼崎市南武庫之荘3-21-21
TEL (06) 6438-7322
FAX (06) 6438-7344
<https://www.amagasaki-library.jp/>

尼崎の自然 デジタルアーカイブで見るむかしの風景

尼崎は都市化の進展に伴い、かつて市内に広がっていた田園風景の多くは姿を消し、日常的に自然に親しむ機会は限られてしまいました。しかしながら、一部の河畔林や社寺林、田畑、河川などは当時の面影を残しつつ、身近な自然として現在も残っています。また、新たに緑地や水辺が創られているところもあります。

縄文時代には市域の大部分が海で、河川からの土砂の堆積や海岸線の後退によって現在の市域が形成されています。昭和初期ごろまでは、市域には田畑が広がっており、河川や海では漁業が営まれ、川遊びや潮干狩りなどが行われるなど、暮らしと自然はとても身近なものでした。その後、都市化が進むにつれて、農地は宅地や工場用地などに転用され、面積を減らしました。河川は水害対策として改修が行われ、海は埋め立てなどによって、干潟が消失し海岸線の人工化が進みました。

現在では、市域のほとんどが建物や道路などの人工物で占められ、古くからの自然環境は孤立・断片化や人工化が進んでいます。緑地や水辺は2割ほどを占めるだけとなっており、残された自然環境を適切に保全していく必要があります。近年では、まちの中に残る田んぼや水路を活用して公園を整備したり、工場の一部に植物を植えたりして、水辺の保全や緑化推進に取り組んでいます。

かつてあった尼崎の自然やまちの風景がデジタルで見られます。尼崎市立歴史博物館のHPでは、さまざまなデジタルコンテンツを公開中です。その中で、『絵はがきデータベース“あまがさきPCD”』(<https://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/pcd/>)には、自然の風景写真も数多くアーカイブされています。北図書館内・参考室のパソコンでも閲覧できますので、この機会にご利用ください。



(「尼崎市生物多様性保全・創出ガイドライン」尼崎市経済環境局環境部環境創造課／編集・出版
「尼崎の自然ハンドブック」 尼崎市経済環境局環境部環境創造課／編集・出版)

●自然や生き物に関する本●

『さぐろう生物多様性』	岡崎務／著 小泉武栄／監修	PHP研究所	221921166
『湿地の大研究』	遊磨正秀／監修	PHP研究所	221633076
『身近な生きものから見た尼崎の自然調査報告書』	尼崎市環境創造課、尼崎市中学校理科教育研究会、環境学園専門学校／編集	尼崎市	330043926

<図書館の休館日> 開館時間 午前9時～午後8時(日曜・祝日は、午後5時15分まで)

4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
⑥	7	8	9	10	11	12
⑬	14	15	16	17	18	19
⑳	21	22	23	24	25	26
㉗	28	㉙	30			

5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③
④	⑤	⑥	7	8	9	10
⑪	12	13	14	15	16	17
⑱	19	20	21	22	23	24
㉕	26	27	28	29	30	31

印の日はお休みです

四月:卯月

白く小さな花を咲かせる卯の花に因む。

さくらまじ はなむけ

季語: 朧月夜、桜南風、苗代、銭
歳時記: エイプリルフール(1日)、春の全国交通安全運動(6-15日)花祭り(8日)、郵政記念日(20日)

出典:「歳時記のある暮らし」坂東真理子／監修 JTBパブリッシング



こどもの読書週間



4月25日(金)から、北図書館で楽しい企画を開催！

今年のテーマは「ことばあそび」です。

みなさんのご参加をお待ちしています！

バリアフリー映画会

上映作品:「映画おしりたんてい さらに愛しき相棒(おしり)よ」

2024年製作／71分／日本／原作:トロール／監督:セトウケンジ

【日 時】4月6日(日) 午後2時～3時30分

【場 所】3階集会室

【対 象】どなたでも ※小学2年生以下は保護者同伴

【定 員】先着50人

【申 込】3月13日(木)～1階カウンター、電話、またはFAXにて受付

TEL 番号:(06)6438-7322

FAX番号:(06)6438-7344

【協 力】ポプラ社

【費 用】無料

視覚・聴覚に不自由のある方でも一緒に楽しめる映画会です。

※「日本語字幕」と「音声ガイド」が付いています。



大きい大きい紙芝居大会

【日 時】4月26日(土) 午後2時～3時

【場 所】3階集会室

【対 象】どなたでも

【定 員】先着70人

【申 込】不要

ボランティアグループひまわりの会の皆さんによる大型紙芝居です。

赤ちゃんから大人の方までどうぞ！当日は直接会場にお越しください。



<4月展示のご案内>

一般大展示

「本屋大賞の作家たち」

2階展示

「室町さんぽ ～落第忍者乱太郎を手がかりに～」

「アオハル 春の新書まつり」

大人のための朗読会

【日 時】 4月16日（水） 午後2時から1時間ほど

【場 所】 3階 集会室

【内 容】 『だれにも見えないベランダ』より
「カスタネット」 安房 直子／著

『独立記念日』より

「いろはに、こんぺいとう」 原田 マハ／著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 田辺聖子

〔たなべせいこ〕1928年～2019年。大阪生まれ。樟蔭女子専門学校国文科卒。『感傷旅行』で芥川賞、『ひねくれ一茶』で吉川英治文学賞、『道頓堀の雨に別れて以来なり』で泉鏡花文学賞と読売文学賞受賞。

『おいしいものと恋のはなし』

田辺 聖子〔著〕／世界文化社

はるみと美智子は会社帰りに曽根崎の焼き肉屋で恋の話に花を咲かせる。はるみが好きになった人に彼女がいるか美智子に確かめてほしい、という「卵に目鼻」をはじめ、「ときめき」を詰めこんだ田辺聖子の恋愛短編集。「ずばら」「百合と腹巻」「金属疲労」など全9編を収録する。

『とりかえばや物語』

田辺 聖子〔著〕／文藝春秋

権大納言家には凜々しい若君・春風と、美しい姫君・秋月がいる。だが実はこの異母兄妹、春風は女で、秋月は男であった。父の権大納言はこのことを隠したまま、ふたりを宮中デビューさせるが……。『21世紀版少年少女古典文学館 8』（講談社2009年刊）の改題。

『食べるたのしみ』

田辺 聖子〔著〕／中央公論新社

人生にはすぐに役に立つたのしみと、役には立たぬたのしみがあって“食べることは、身を養いつつ、たのしみになるのだから、じつに一石二鳥である”という田辺聖子の食に関するエッセイを、初収録の献立メモと買物の記録、おもてなし日記を含めて独自に編集し単行本化。

『小倉百人一首』

田辺 聖子〔著〕／ポプラ社

歌が人の心を美しくし、生きる力をもたらすと信じた藤原定家の「小倉百人一首」をやさしい言葉で解説。お姉さんのサダ子さんと弟のイエ太くんの和歌の疑問を説明する形で進行するので、友達とお喋りしているような雰囲気楽しく読める。【小学5～6年生】

大阪弁で軽妙に綴る小説を主体に歴史エッセイ、評論などを執筆、古典文学への造詣も深い。芥川賞ほか数々の文学賞を受賞しており、直木賞選考委員も務めるなど幅広く活躍。1995年紫綬褒章受章。2000年文化功労者、2008年文化勲章受章。2007年には母校の大阪樟蔭女子大学小阪キャンパス図書館内に田辺聖子文学館が開館。

児童室

おはなし会



第1・第2・第3 土曜日 場所:3階集会室

おひざ (0~2さいくらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5さいくらい) 午後2:15~
 大きい人 (小学校低学年) 午後2:40~

4/5(土)

●おひざのうえ

「りんご」
 「だれかな?だれかな?」

○小さい人

「だれかがきたよ」
 「きかんしゃホブ・ノブ」

◎大きい人

「はるがきた」
 「エパミナンダス」

4/12(土)

●おひざのうえ

「どのはないちばんすきなはな?」 「ちゅうちゅうちゅちゅちゅ」
 「どんどんばしわたれ」

○小さい人

「おべんともっておはなみに」
 「ちいさなふたりのいえさがし」

◎大きい人

「ライオンのくにのネズミ」
 「わらむすめ」

4/19(土)

●おひざのうえ

「おやすみ」

○小さい人

「おおきくなるっていうことは」
 「ねことねずみ」

◎大きい人

「だいすき、でも、ゆめみてる」
 「おなかのかわ」



第1・第3水曜日

あかちゃんひろば

場所:1階絵本コーナー

4/2(水)、4/16(水)

午前11:00~11:20

0さい~2さいくらいのお子さん向け
 赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど

4/26(土)

「大きい大きい紙芝居大会」

午後2時~3時 3階集会室にて

先着70人



第2・第4日曜日

場所:1階ロビー2さいくらいから

4/13(日)、4/27(日)

午前11:00~11:20

季節の絵本や紙芝居など

2025年 4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 🐰	3	4	5 🐼
6 🐼	7	8	9	10	11	12 🐼
13 🐼	14	15	16 🐰	17	18	19 🐼
20 🐼	21	22	23	24	25	26 🐼
27 🐼	28	29	30			

※ 日・祝日は、午後5時15分まで

今月の展示



『はるのほん』